長崎県文化財調査報告書 第205集

長崎県埋蔵文化財調査年報17

［平成20年度調査分］

2010

長崎県教育委員会

はじめに

埋蔵文化財とは、地域における先人の歴史や文化を映すものであり、歴史的・文化的資産、地域的資産、教育的資産としての意義をもち、地域づくりやひとづくりに活用できる格好の財産といえます。

長崎県には、現在約3,800箇所の埋蔵文化財が確認されております。埋蔵文化財は、大部分が地下に埋蔵されているため、通常は人の目に触れることもなく保護されています。しかし、毎年のように公共事業や民間の開発行為などにより破壊されたり、消滅したりする危機に瀕しています。そのため、埋蔵文化財保護を目的として事前に関係部局と協議を行い、事業の計画変更をお願いし、やむを得ず事業が変更できない場合は記録保存のための発掘調査を実施するかたちで対処しているところです。

本書は、近年の本県における埋蔵文化財保護行政の実態と埋蔵文化財の保存活用事業についてまとめたものであり、平成20年度に長崎県教育委員会が実施した調査についての概要も含めて掲載しています。

本書の刊行が、県内埋蔵文化財保護行政の更なる発展と、県民の皆様の埋蔵文化財への愛護意識の向上に貢献できますことを念願いたします。

平成22年３月31日

長崎県教育委員会教育長　寺　田　隆　士

例　言

1．本書は、長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が平成20年４月１日から平成21年３月31日までに実施した11ヶ所の発掘調査の概要を収録したものである。
2．各遺跡の調査概要中の位置図は、国土地理院発行の地図を使用し、[　] 内は図幅名（地区名）を表している。
3．本書に掲載した遺跡には、県教育委員会が主体として試掘範囲確認調査および発掘調査を実施したもの、市町教育委員会による発掘調査を支援したものを含む。
4．各遺跡の調査担当者と調査概要の文責については、文末に記している。
5．本書の編集については、長崎県教育庁学芸文化課がおこなった。

本文目次

はじめに

1　長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状
（1）本県における公共工事に伴う発掘調査の現状 …… 1
（2）本県の埋蔵文化財保存活用事業 …… 2
（3）佐世保文化財調査事務所の普及啓発事業 …… 6
（4）原の辻遺跡調査事務所の発掘調査事業と保存活用事業 …… 7

2　県内の発掘調査報告書一覧 …… 11

3　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧 …… 12

4　事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移 …… 18

5　平成20年度の調査概要
① 魚洗川Ｂ遺跡 …… 21
② 黒丸遺跡 …… 23
③ 守山条里跡 …… 25
④ 奈摩の館跡 …… 26
⑤ 奉還遺跡・草木原第３石鍋製作遺跡 …… 27
⑥ 中ノ瀬遺跡（範囲確認調査） …… 28
⑦ 中ノ瀬遺跡 …… 29
⑧ 八幡山城跡 …… 31
⑨ 亀岡城跡 …… 32
⑩ 白岳池周辺遺跡 …… 34
⑪ 稗田窯跡 …… 35

1　長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

（1）本県における公共工事に伴う発掘調査の現状

本県の大規模公共工事に伴う埋蔵文化財の調査としては、西九州自動車道に伴う発掘調査がある。

西九州自動車道に伴う調査は、平成14年から実施されている。佐世保～佐々間では８遺跡約９万平方メートルの発掘調査を実施し、平成21年度に完了した。特に門前遺跡は、相浦ＩＣが取り付く部分に立地しており、約５万平方メートルの本調査を実施した。調査では縄文時代早期から前期にかけての遺物包含層、弥生時代早期から後期にかけての河川跡や墳墓（木棺墓）、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての墳墓（石棺墓・土壙墓）と集落跡（掘立柱建物跡・竪穴式住居跡）、古代から中世にかけての河川跡など、学術的に重要な意義のある遺構や遺物が発見されている。平成20年度からは松浦～伊万里間における発掘調査が実施されており、松浦市中ノ瀬遺跡、同市八幡山山城跡の調査が着手されている。

平成20年度に県教委が実施した公共工事に伴う発掘調査としては、雲仙市国見町魚洗川Ｂ遺跡、大村市沖田町黒丸遺跡がある。調査の内容については後述するが、各地域の特色のある遺跡における調査が実施され、各遺跡ともに貴重な成果を得ることができた。

近年の周知の埋蔵文化財包蔵地の中で行われる開発事業の実態として、小規模な開発行為が目立つ。これは遺跡の周知が浸透し、開発者側が埋蔵文化財包蔵地を回避した場所で事業を計画する傾向があることが理由のひとつといえる。また、開発事業の内容についても大規模な掘削を伴う工事は減少し、盛土や新たな基礎工法などでほとんど掘削を伴わない工事が増加している。埋蔵文化財保護の見地からは非常に望ましい傾向といえるものの、逆に工事立会や慎重工事での対応が増加し、遺跡の本質や範囲が解明されないままそのとりまく環境が変化し、むしばまれていくことが危惧されている。史跡指定地はもちろんのこと、各市町における重要遺跡については、今後の開発行為に備えた遺跡の内容や範囲を確認する予備調査の実施が望まれるところである。

魚洗川Ｂ遺跡発掘調査風景

平成20年３月、新幹線長崎ルート武雄～諫早間の着工が決定した。工事期間は10年間で、それに伴い平成21年度から工事路線が確定したところにおいて分布調査を実施する。その調査結果から範囲確認調査・本調査を含めた今後の取り扱いの協議が進むこととなる。現在の計画路線上に確認されている遺跡としては東彼杵町・大村市・諫早市で13遺跡があるが、路線の約７割がトンネル工事であることから発掘調査に至る遺跡は限られると推測される。

最後に調査体制についてである。市町村合併により各市町における埋蔵文化財担当職員の配置率は増加している。ただ、市町域が拡大したことにより担当職員の負担は増大した。前述したとおり、大型の公共事業が減少している状況の中で、埋蔵文化財担当職員がその他の文化財および社会教育などを兼任する場合が多い。また、近年では「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」に関する業務に専任する担当職員も増え、埋蔵文化財調査体制の維持が難しくなっている現状である。

（2）本県の埋蔵文化財保存活用事業（平成20年度）

①明日につなぐ埋蔵文化財人づくり事業

○開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修

目　的　(1)開発部局担当者に文化財に対する理解を深めてもらい、その取り扱いについて具体的な情報を提供することにより、円滑な文化財行政を推進する。

(2)文化財主管課担当者に基礎的な知識を習得する場を提供し、文化財の保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどの理解を深めさせ資質の向上を図る。

期　日　平成20年４月23日(水)

場　所　長崎歴史文化博物館 ホール

参加者　・県及び市町開発部局担当者

・県及び市町文化財担当者（実務経験３年未満を主体）　計　78名

内　容　・長崎県の文化財保護行政について

・文化財保護法に基づく諸届

・事例発表「埋蔵文化財にかかる開発行為の取り扱い」～大村市の場合～

（大村市教育委員会　文化振興課　大野安生参事補）

・指定および選定・登録文化財について

・補助金業務について

○文化財担当者会議（専門研修）

目　的　市町文化財担当者に文化財保護に関する新たな情報や専門的な知識を習得する場を提供し、統一的なテーマを中心に講義・事例発表・討議を行うことにより専門的な資質の向上を図る。

期　日　平成20年10月２日(木)～３日(金)

場　所　長崎県農協会館 ７階（701会議室）

参加者　県及び市町文化財担当者　29名

内　容　議題「文化財の保護と活用について」

・講演「文化財の活用とまちづくり」　（関西外国語大学　佐古和枝氏）

・事例発表「平戸市内における天然記念物の保護と利活用」

（平戸市教育委員会 文化遺産課 加藤有重班長）

・事例発表「文化財ボランティアの育成について」

（壱岐市教育委員会 文化財課 松本浩二主事）

・グループ協議

平成20年度の４月に実施した基礎研修は、文化財担当者で経験年数３年未満の初任者を対象として、埋蔵文化財の内容と取扱い、指定文化財・登録文化財の指定・選定、補助金業務などの基礎的な内容について説明をおこなった。

10月に実施した担当者会議は、前年度までに実施していた専門研修に加えて、文化財行政における新たな情報を提供し意見交換をする場を習得するなどの内容を充実させ会議形式とした。今年度の議題（テーマ）は「文化財の保護と活用について」として、文化財の保全管理・ボランティアの活用などの視点から講義・事例発表・グループ協議を実施した。

②重要遺跡情報保存活用事業

○長崎県中近世城館跡分布調査事業（平成20年度）

・調査票作成（調査対象遺跡）

悉皆調査等の内容の検討・記載。新規で発見があったものについて、新たな調査票を作成。

・悉皆調査

西海市平島・江島　4ヶ所　　計　4ヶ所

・詳細調査　【資料1】

長崎市3ヶ所　諫早市4ヶ所　松浦市3ヶ所　南島原市1ヶ所　雲仙市3ヶ所
対馬市1ヶ所　五島市2ヶ所　西海市5ヶ所　長与町2ヶ所　川棚町3ヶ所
波佐見町1ヶ所　新上五島町1ヶ所　佐々町2ヶ所　　計　31ヶ所

・指導委員会

【第1回】［期日］平成20年12月13日（土）
［場所］えきまえいきいきひろば
［内容］・平成20年度事業計画について
・平成20年度調査報告について

【第2回】［期日］平成21年3月12日（木）
［場所］松浦史料博物館
［内容］・平成20年度調査報告について
・調査報告書について
・現地指導　平戸市館山

・調査報告会

【第1回】［期日］平成20年11月30日（日）
［場所］東彼杵町松岳城跡
東彼杵町歴史民俗資料館
［内容］・現地見学会
・調査報告会
・講演会
（大村史談会 久田松和則氏）

【第2回】［期日］平成21年3月21日（土）
［場所］佐世保市広田城跡
広田地区公民館
［内容］・現地見学会
・調査報告会
・講演会
（北部九州中近世城郭研究会
中村修身氏）

【資料1】

詳細調査一覧表

【平成21年4月3日作成】

番号	城館ID	城館名（別称）	市町村名	残存状況	竪堀	空堀	堀切	土塁	石垣	櫓台	その他	調査年度
1	100	西高田城	西彼杵郡長与町	○			1	1	1		帯曲輪	H20
2	101	東高田城	西彼杵郡長与町	○			1				※西高田城との関連から調査	H20
3	259	日野江城	南島原市北有馬町	○		1			1	1		／
4	257	原城	南島原市南有馬町	○					1		天守台	／
5	174	松岳城	東彼杵郡東彼杵町	○					1	1	天守台	H18
6	261·263	大浦城（有家城・里坊城・川原城）	南島原市西有家町	○		1						H20
7	182·524	河原城（館）	東彼杵郡川棚町	○		1		1				H20(佐)
8	185	小峰城	東彼杵郡川棚町	○					1			H20(佐)
9	183	風南城	東彼杵郡川棚町	○	1	1	1	1				H20(佐)
10	008	福田城（福田古城）	長崎市	○			1	1	1			H20
11	010	烏山城（千歯城）	長崎市	○	1	1	1	1		1		H20
12	021	俵石城	長崎市	○	1	1		1	1		畝状竪堀	／
13	041·492	高浜城（城山城）	長崎市野母崎町	○	1	1	1	1			畝状竪堀	H20
14	064·070	太田和氏館	西海市西海町	○		1		1				H20
15	065·077	下り山城	西海市西海町	○	1	1	1		1			H20
16	057	八幡山城	西海市西彼町	○	1		1		1			H20
17	600	天狗山城	西海市西彼町	○		1		1			タコツボ状遺構？	H20
18	061	城の山古城（中山郷）	西海市西彼町	○	1		1		1			H20
19	085	田舎城	西海市西彼町（平島）	○			1				石塁、岩陰	／
20	147	権現岳城	諫早市小長井町	○		1	1	1				H20
21	137	古田城	諫早市高来町	○		1		1			土橋	H20
22	111	真崎城	諫早市	○		1	1	1	1			H20
23	114	宗方城	諫早市	○			1	1		1	※地権者の承諾不可	／
24	109	かのう城	諫早市多良見町	○	1		1			1		H21
25	110	平松城	諫早市	○		1				1	※追加調査	H21
26	214	鶴亀城（神代城）	雲仙市国見町	○		1		1	1	1	※二の丸追加調査	H20
27	226·231	開城（古部城）	雲仙市瑞穂町	○		1	1	1			虎口	H20
28	243·537	飯岳城（古城）	雲仙市千々石町	○				1	1		石塁	H20
29	194·197	松山城（金谷城）	東彼杵郡波佐見町	○	1	1	1	1		1		H20(佐)
30	157	城の尾城	大村市	○	1	1	1	1	1	1	畝状竪堀か？	H21
31	154	伊賀峰城	大村市	○			1	1	1	1		H21
32	152	玖島城	大村市	○		1		1	1	1		／
33	151	三城城	大村市	○		1		1				／
34	179	武留路山城	東彼杵町	○					1		石塁	H21
35	133	囲城	諫早市飯盛町	○		1		1			土橋	H20
36	135	岡城	諫早市飯盛町	○	1		1	1				H18
37	420	勝本城	壱岐市勝本町	○		1			1			／
38	430	生池城	壱岐市勝本町	○		1		1	1		土橋	H21
39	424	高津城	壱岐市勝本町	○		1		1			土橋	H21
40	483	帯田城	壱岐市郷ノ浦町	○		1		1	1		石塁	H21
41	495	郡城	壱岐市芦辺町	○		1		1				H21
42	463	金石城	対馬市厳原町	○					1			／
43	476	撃方山城	対馬市上対馬町	○					1	1		H20
44	462	清水山城	対馬市厳原町	○	1				1			／
45	383	勘次ヶ城（山崎の石塁）	五島市（富江町）	○					1			H20
46	643(新規)	嘯月園（吉久木町御茶園山）	五島市（福江市）	○					1			H20
47	381·387·561	石田城（石田陣屋・大値賀城）	五島市（福江市）	○					1			／
48	399	殿山城	新上五島町（上五島町）	○		1	1	1				H20
49	294	大刀洗城	佐世保市（佐世保市）	○		1		1				H19(佐)
50	293	指方城（佐志方城）	佐世保市（佐世保市）	○			1		1			H19(佐)
51	290	広田城（牛壺城・牛ノ城）	佐世保市（佐世保市）	○	1	1	1	1	1			H19(佐)
52	289	塩浸城	佐世保市（佐世保市）	○		1	1	1			武者溜まり？	H19(佐)
53	304	井手平城	佐世保市（佐世保市）	○	1	1	1	1				／
54	372	膳所城	小値賀町	○		1		1				／
55	298	針尾城	佐世保市（佐世保市）	○		1		1				／
56	285	武辺城	佐世保市（佐世保市）	○	1	1	1	1	1	1		／
57	350	龍手田城	平戸市（田平町）	○		1		1				H19
58	329	館山	平戸市（平戸市）	○		1		1				H19(佐)
59	336	箕坪城	平戸市（平戸市）	○			1		1	1	水手曲輪	H19
60	276	殿平城	佐世保市（佐世保市）	○			1	1			石塁※地権者の承諾不可	／
61	335	小富士城	平戸市（平戸市）	○					1			H19
62	291	上小林城（追加調査）	佐世保市（佐世保市）	○			1	1				H19(佐)
63	319	直谷城	佐世保市（吉井町）	○		1	1	1		1		／
64	354	松岡屋敷	松浦市（松浦市）	○		1	1	1				H20(佐)
65	599	八幡山城	松浦市（松浦市）	○	1	1		1			土橋	H20(佐)
66	353	松浦党梶谷城	松浦市（松浦市）	○	1				1			／
67	367	医王城	松浦市（鷹島町）	○	1	1		1			畝状竪堀	H20(佐)
68	379	東光寺山城	佐々町	○	1		1					H20(佐)
69	378(380)	龍王城（野寄砦）	佐々町	○		1		1				H20(佐)

※グレーは縄張り調査から除外する城館

③伝え守ろうふるさとの文化遺産推進事業

○「長崎県の遺跡・史跡大辞典」ホームページ作成事業

県内の遺跡・史跡340ヶ所の情報について閲覧できるホームページを作成する事業である。

内容としては、報告書に掲載されている図面・写真などを中心に遺跡・史跡の所在地、時代、主な遺構、主な出土遺物の情報を提示する。平成19・20年度で作成し、平成21年4月から公開している。また、将来的には県立埋蔵文化財センターの遺跡情報検索システムとも共有化する見込みである。

○副教材「長崎県の文化財」作成事業

［目的］地域の身近な文化財を題材とした映像を使ったわかりやすい郷土学習資料を作成し、学校教育での活用を促すことにより、長崎県や自分の住む地域について学ぶ機会を提供し、子供たちにふるさとへの理解と愛情を深めさせる。

［内容］中学生を対象に、県内の文化財を映像によって紹介し、社会科などの授業において教師が容易に使用できる副教材（CD）を作成する。平成19年度は「通史編」、平成20年度は「地域編」を作成した。

「通史編」は、原始時代から近代までの歴史の流れの中で、各時代における身近な文化財を写真資料として紹介し、授業の導入やまとめなどで利用できるものとした。また、キリスト教関連遺産についても付編として主な教会を紹介している。授業の中での活用の参考に、各時代・単元ごとに学習指導案を添付し、展開例を提示している。

「地域編」は、国指定史跡や埋蔵文化財包蔵地を中心として各地域の重要遺跡について写真資料を中心に紹介している。また教材として利用できる写真画像の提供や、調べ学習の方法を提示するなど、社会科のみならず選択教科や総合学習においても利用しやすい内容を取り入れている。

長崎奉行所跡

肥前波佐見陶磁器窯跡

肥前陶磁器

（3）佐世保文化財調査事務所の普及啓発事業

①西九州自動車道埋蔵文化財発掘調査成果展「郷土の遺跡展」

【期間・会場】平成20年11月７日～平成20年12月15日：長崎歴史文化博物館
平成20年12月18日～平成21年１月８日：佐世保市博物館島瀬美術センター
入場者数8,100名（2会場計）

【内　　容】西九州自動車道埋蔵文化財発掘調査が終了した門前遺跡を始めとして６遺跡の主な出土遺物740点や写真パネル110枚を展示

【講 演 会】・期日…平成20年12月20日
・講師…大阪大学大学院、福永伸哉教授
「佐世保市門前遺跡の弥生時代木組み遺構」について

②平成20年度 県北地区市町教育委員会文化財担当者研修会

【期　　日】平成20年８月25日（月）
平成20年８月29日（金）

【場　　所】平戸市田平支所（25日）
佐世保市西地区公民館（29日）

【対 象 者】県北地区所管内教育委員会文化財担当者
（佐世保市、平戸市、松浦市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、小値賀町、江迎町、鹿町町、佐々町）

【内　　容】①佐世保文化財調査事務所の事業概要および文化財保護行政について
②埋蔵文化財関係の届出等について
③質疑応答

この研修会の目的は、平成19年４月１日付けで、県教育庁地方機関「佐世保文化財調査事務所」が設置された経緯と、同年６月から県北地区所管内の文化財保護法の手続きに関する届出等については、本事務所に届出及び経由することについて（従来は直接学芸文化課へ提出していた）、周知徹底を図るために実施した。また、所管内の教育委員会の諸々の文化財事業に関する周知や協力について、連携を深めることができた。

（4）原の辻遺跡調査事務所の発掘調査事業と保存活用事業

原の辻遺跡は、弥生時代の国、集落の構造を解明するために極めて重要な遺跡として平成12年11月24日に国の特別史跡に指定された。現在、文化庁の「史跡等総合活用推進事業」の補助事業を受け、壱岐市によって魏志倭人伝に記載された「一支国」の王都の復元整備が進められている。

原の辻遺跡調査事務所が平成20年度に行った事業には、発掘調査事業と保存活用事業がある。発掘調査は、重要遺構等の内容確認のための調査研究事業の範囲確認調査と県道付け替えのための緊急調査を実施した。保存活用事業では、原の辻遺跡を広く周知させるための普及啓発事業として、事務所が実施している保存活用事業の他に、壱岐市の原の辻遺跡保存等協議会主催の古代米づくり、原の辻サポーター養成の事業等に支援・協力を行った。

1　発掘調査事業

平成20年度に事務所が実施した発掘調査は、国庫補助の「調査研究事業」と県道付け替えに伴う緊急調査である。県道の調査は、原地区（826㎡）と原ノ久保地区（374㎡）の合計1,200㎡の発掘調査を実施した。調査の結果、原地区では新たに土壙墓などの墳墓群が確認され、原の久保C地区の墓域に含まれることが判明した。今回の原地区の調査では、土壙墓19基、小児甕棺墓18基、小児の箱式石棺墓１基、土壙４基、溝１条、落ち込み３基、ピット45箇所が検出された。甕棺など出土土器からみると、弥生時代中期前葉～後期後葉までの時期にわたって形成された墓域であり、土壙墓が卓越するのが特徴である。副葬品は、土壙墓から鉄剣・鉄矛・刀子・鋳造鉄斧・碧玉製管玉、甕棺墓からガラス小玉・緑色頁岩製管玉が出土した。

調査研究事業では、台地東側低地の石田高原地区（430㎡）と八反地区（300㎡）の合計740㎡の発掘調査を行った。石田高原地区の調査は、台地東側にある環濠のつながりの状況などを確認するために、平成19年度から継続して実施したもので、平成19年度調査区の南側に５箇所の調査区を設けた。調査の結果、石田高原地区では弥生時代後期に内濠の掘り直しを行った際に造成を行っていることが確認され、造成土の下に小児の箱式石棺墓１基が検出された。また新たに、溝１条、沼状の落ち込み１箇所が確認され、昨年度に引き続いてピット群が確認された。ピット群は建物の柱と思われるが、倉庫なのかあるいは住居なのか性格が判明しておらず、建物群の位置づけを調査指導委員会委員の宮本長二郎氏に検討をお願いしている。これまで原の辻遺跡では、台地内にまとまった倉庫群は確認されておらず、低地に稲倉群が存在することとなれば、吉野ヶ里遺跡にみられる建物群と同様なあり方が原の辻遺跡でも確認されることになる。今後のピット遺構の精査検討に期待したい。

八反地区では、水田跡等の土地利用の解明をめざして、船着き場跡の南側に調査区を設けて発掘調査を行った。調査の結果、溝状の落ち込みなどが確認されたが、土壌の科学分析を実施したところ、水田であったことを示す結果は表れなかった。

2　保存活用事業

保存活用事業の目的は、県内外および島内市民に対して、広く「原の辻遺跡」の周知を行い、原の辻遺跡関連事業への理解を図っていくための事業である。

事業内容としては、展示のための遺物の保存処理、調査指導委員会の開催、九州北部三県姉妹遺跡連絡会議、体験学習活動、ホームページの活用、壱岐高校の「原の辻歴史文化コース」への支援、市

が実施している古代米づくり、ボランティア養成などへの支援を行っている。

調査指導委員会は、西谷正（九州大学名誉教授・九州歴史資料館長）委員長をはじめ７名の委員からなり、発掘調査で検出された遺構の内容・性格や出土遺物等についての助言・意義付け、遺跡の保存等についての指導を受ける会議である。平成20年度は、11月４日に実施し、石田高原地区の環濠・ピット等の遺構、今後の調査計画などについて指導検討をいただいた。また、11月９日には、壱岐市の調査現場と併せて、現地説明会を実施した。

北部九州三県姉妹遺跡関係では、締結10周年を記念して九州国立博物館で特別展示を８月19日～11月16日に実施し、「よみがえる弥生都市」のシンポジウムを開催した。また、これに関連して「壱岐・原の辻展示館」においても、８月６日～11月16日に「原の辻遺跡の知られざる二つの顔」というテーマで、特別企画展示を実施した。また、それに加えて11月15日～３月１日に「倭の水人－対馬海峡・玄界灘・日本海で活躍した倭人たち－」というテーマの特別企画展示を行った。

体験学習活動は、島内の小中学生、県内外の修学旅行生を対象に、展示館と遺跡の見学、勾玉づくりと火起こし体験などを行っている。平成20年度は、島内小中学校13校445名、県内外小中学校15校956名の合計28校1,461名の体験学習を行った。また、７月30日に、島内の教職員を対象とした「教職員体験講座」を実施した。

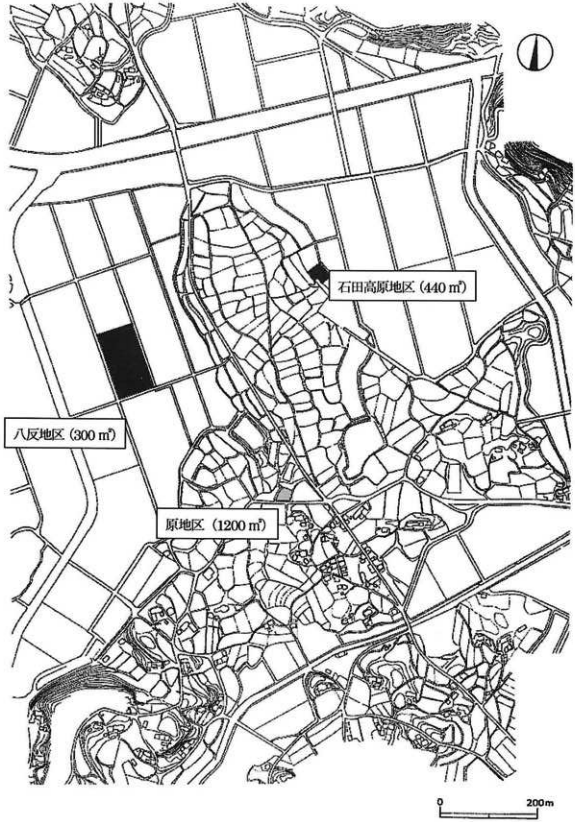
壱岐高校の「原の辻歴史文化コース」については、２年生の「考古学入門・生活文化史」の授業に支援している。授業内容としては、発掘・実測・土器づくりなどの実習と土器・石器・木製品・金属器・墓制などの講座を、事務所と遺跡で18回実施した。

壱岐市の原の辻遺跡保存等協議会が行っている「古代米づくり」は、平成20年６月21日に田植え（110名）、10月25日に稲刈り（138名）、11月16日に原の辻ウォーク・収穫祭を実施した。そのなかでも、原の辻ウォーク・収穫祭の参加者は例年に増して盛況で603人に達した。また、小学生と保護者を対象とした「原の辻夏休み体験広場」（８月２日）にも支援協力を行った。

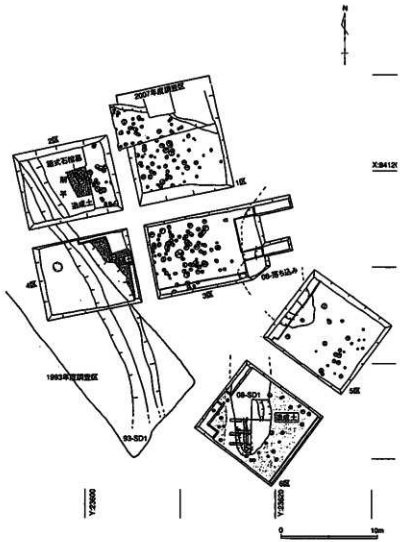
ボランティアの原の辻サポーターは、壱岐市の原の辻遺跡保存等協議会が主体となって取りまとめて、ガイド・活動支援・環境整備に分かれて活動を行っており、調査事務所のスタッフも積極的に参加している。ガイドグループは、研修を行いながら土曜と日曜日に壱岐・原の辻展示館でのガイドを行っている。活動支援グループは、体験学習の研修を積みながら、修学旅行などの大人数の体験学習への支援を行っている。環境整備グループは、壱岐市が行っている古代米づくりの支援を行いながら、史跡内の草刈りなどの美化活動などを行っている。平成22年春には、一支国博物館と遺跡のガイダンス施設が同時に開館し、遺跡公園も部分公開していくので、原の辻遺跡と一支国博物館を支え、島内の文化遺産を守り、伝えていくボランティアの組織体制を早急に確立することが課題となっている。

参考文献

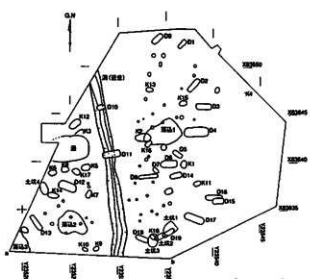
1　林　隆広編『原の辻遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第39集　長崎県教育委員会　2009
2　川畑敏則編『原の辻遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第40集　長崎県教育委員会　2009
3　『平成20年度「原の辻サポーター」活動報告書』　原の辻遺跡保存等協議会　2009



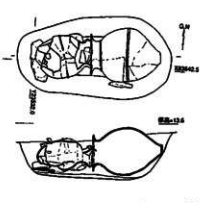
第1図　平成20年度 原の辻遺跡調査区図



第２図　石田高原地区調査区図（1/400）



第３図　原地区調査区図（1/400）



第４図　２号墓棺墓（1/40）

2　県内の発掘調査報告書一覧（平成20年度刊行）

番号	報告書名	発行機関
1	黒丸遺跡Ⅲ　～都川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～（長崎県文化財調査報告書第201集）	長崎県教育委員会
2	魚洗川Ｂ遺跡Ⅲ　～百花台公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～（長崎県文化財調査報告書第202集）	長崎県教育委員会
3	長崎県埋蔵文化財調査年報16［平成19年度調査分］（長崎県文化財調査報告書第203集）	長崎県教育委員会
4	原の辻遺跡　～主要地方道勝本石田線道路改良工事に伴う調査報告書⑥～（原の辻遺跡調査事務所調査報告書第39集）	長崎県教育委員会
5	原の辻遺跡　～原の辻遺跡調査研究事業調査報告書～（原の辻遺跡調査事務所調査報告書第40集）	長崎県教育委員会
6	樺島町遺跡　～長崎市樺島町９番６における埋蔵文化財発掘調査報告書～	長崎市教育委員会
7	万才町遺跡　～長崎地方裁判所庁舎増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～	長崎市教育委員会
8	福井洞窟範囲確認調査報告書(2)（佐世保市文化財調査報告書第１集）	佐世保市教育委員会
9	上野町遺跡1127、1159地点　～諫早南部第１地区区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～（諫早市文化財調査報告書第23集）	諫早市教育委員会
10	今富城跡　～携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～（大村市文化財調査報告書第32集）	大村市教育委員会
11	富の原遺跡　～市道富の原３号線道路改良工事に伴う発掘調査報告書～（大村市文化財調査報告書第33集）	大村市教育委員会
12	市内遺跡発掘調査概報３（大村市文化財調査報告書第34集）	大村市教育委員会
13	市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ（平戸市の文化財62）	平戸市教育委員会
14	史跡平戸和蘭商館跡の発掘調査Ⅶ（平戸市の文化財63）	平戸市教育委員会
15	松浦市内遺跡確認調査(2)（松浦市文化財調査報告書第３集）	松浦市教育委員会
16	市内遺跡発掘調査報告書Ⅶ（平戸市の文化財61）	平戸市教育委員会
17	特別史跡 原の辻遺跡 史跡等総合整備活用推進事業に伴う遺構確認調査 高元Ⅷ区・原ⅩⅤ区・原Ⅹ Ⅶ区・石田大原344区（壱岐市文化財調査報告書第14集）	壱岐市教育委員会
18	伊古遺跡Ⅱ　～縄文時代草創期編～（雲仙市文化財調査報告書第６集）	雲仙市教育委員会
19	壱岐カラカミ遺跡Ⅱ　～カラカミ遺跡東亜考古学会第１地点の発掘調査～	九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室

3　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧

集	報　告　書　名	発行年
1	長崎県遺跡地名票（埋蔵文化財包蔵地）	1962
2	五島遺跡調査報告	1964
3	民俗資料調査報告書	
4	福井洞穴調査報告書	1966
5	深堀遺跡	
6	男女群島特別調査報告	1968
7	宮下遺跡調査報告（図録編）	1968
8	対馬－豊玉村佐保シゲノダン・唐崎の青銅器を出土した遺跡の調査報告	1969
9	宮下遺跡調査報告（解説編）	
10	堂崎遺跡調査報告書（長崎県長与町所在）	1970
11	有明海の沿岸地区の民俗	1972
12	長崎県の民家（前編・後編）	1972
13	対馬西岸阿連・志多留の民俗	1972
14	里田原遺跡（図録）	
15	下五島貝津・大串の民俗（本文編・図録編）	1974
16	対馬の文化財	
17	対馬－浅茅湾とその周辺の考古学調査－	1974
18	里田原遺跡（略方Ⅱ）	1974
19	壱岐の文化財	
20	対馬の遺跡	1975
21	里田原遺跡	1975
22	下五島の文化財	
23	長崎県民俗地図	1976
24	諫早北バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第１集（図録編）	1975
25	里田原遺跡	1976
26	原の辻遺跡	1976
27	西彼杵半島猪垣分布調査概観	1977
28	平戸市野子地域の民俗・福島町土谷の民俗（上・下）	1977
29	長崎県のカトリック教会	1977
30	旧島原藩薬園跡環境整備報告	1977
31	原の辻遺跡Ⅱ－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1977
32	里田原遺跡	1977
33	金石城跡緊急発掘調査報告書	1977
34	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅰ）採譜篇・別冊	
35	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅰ	1978

集	報　告　書　名	発行年
36	世知原町開作免の民俗	1978
37	原の辻遺跡Ⅲ－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1978
38	里田原遺跡	1978
39	日蘭関係資料	1979
40	平戸・上五島地区の文化財	1979
	平戸・上五島地区の文化財（美術工芸品の部）	1979
41	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅱ）採譜篇	1979
42	長崎県の海女（海士）	1979
43	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅲ）	1979
44	松浦市とその周辺地区の文化財	1979
45	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅱ	1979
46	大村湾の漁労習俗	1980
47	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅳ）	1980
48	キリシタン関係資料	1980
49	佐世保市とその周辺地区の文化財	1980
50	長崎県埋蔵文化財集報Ⅲ	1980
51	串島遺跡	1980
52	ケイマンゴー遺跡	1980
	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅴ）	1981
53	諫早・大村・北高来郡の文化財	1981
54	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1981
55	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅳ	1981
56	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1982
57	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅴ	1982
58	堂崎遺跡－長崎県有家町所在の海中干潟遺跡－	1982
59	島原・南高の文化財	1982
60	針尾人崎遺跡－佐世保市針尾中町所在－	1982
61	長崎唐寺関係所蔵品目録	1982
62	長崎・西彼の文化財	1983
63	橘湾の漁労習俗	1983
64	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1984
65	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1983
66	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅵ	1983
67	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅶ	1984
68	今福遺跡Ⅰ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第一冊	1984
69	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅳ	1984
70	長崎県の農具調査（前編）	1985

集	報　告　書　名	発行年
71	名切遺跡	1985
72	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅴ	1985
73	西ノ角遺跡	1985
74	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1985
75	長崎県埋蔵文化財集報Ⅷ	1985
76	楼楷田遺跡　松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書	1985
77	今福遺跡Ⅱ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第二冊	1985
78	百花台遺跡	1985
79	長崎の近世社寺建設緊急調査報告書	1986
80	長崎県の農具調査（後編）	1986
81	上原遺跡	1986
82	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅸ	1986
83	殿崎遺跡	1986
84	今福遺跡Ⅲ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第三冊	1986
85	諫早中核工業団地造成工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1986
86	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅹ	1986
87	長崎県遺跡地図	1987
88	長崎県の民謡	1987
89	温泉岳　保存管理計画策定書	1988
90	中道壇遺跡	1988
91	長崎県埋蔵文化財調査報告書ⅩⅠ	1988
92	百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1988
93	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅵ	1989
94	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅡ	1989
95	魚洗川Ｂ遺跡－全国植樹祭会場造成工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	1990
96	長崎県の諺職調査	1990
97	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅢ	1990
98	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅶ	1990
99	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅷ	1991
100	礫石原遺跡－県道愛野～島原線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	1991
101	長崎県埋蔵文化財調査報告書ⅩⅣ	1991
102	対馬天然記念物緊急調査報告書	1991
103	長崎県天然記念物実態調査報告書－対馬を除く－	1991
104	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅤ	1992
105	上大垣遺跡	1992
106	県内古墳詳細分布調査報告書	1992
107	大陸渡来文物緊急調査報告	1992

集	報告書名	発行年
108	長崎県埋蔵文化財調査集報ＸⅥ	1993
109	県内重要遺跡範囲確認調査報告書	1993
110	長崎県遺跡地図－長崎市・諫早市・大村市・西彼杵郡・北高来郡－	1994
111	長崎県遺跡地図－島原市・南高来郡地区－	1994
112	長崎県遺跡地図－壱岐地区－	1994
113	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅰ	1994
114	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ	1994
115	中木場遺跡－水無川第３遊砂地造成工事に伴う発掘調査報告書－	1994
116	県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1994
117	長崎県遺跡地図－福江市・南松浦郡地区－	1995
118	長崎県遺跡地図－対馬地区－	1995
119	長崎県遺跡地図－佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡・東彼杵郡地区－	1995
120	長崎県の民俗芸能－長崎県民俗芸能緊急調査報告書－	1995
121	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅲ	1995
122	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅱ	1995
123	万才町遺跡　長崎県庁新別館建替えに伴う発掘調査報告書	1995
124	原の辻遺跡	1995
125	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅲ	1996
126	伊木力遺跡Ⅰ	1996
127	黒丸遺跡Ⅰ－都市計画道路杭出津・松原線改良工事に伴う発掘調査報告書－	1996
128	中木場遺跡Ⅱ－水無川４号遊砂地造成工事に伴う工事立会調査－	1996
129	中木場遺跡Ⅲ－水無川１号ダム建設工事に伴う緊急発掘調査－	1996
130	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅳ	1996
131	長崎奉行所関係文書調査報告書	1997
132	黒丸遺跡Ⅱ	1997
133	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ	1997
134	伊木力遺跡Ⅱ	1997
135	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅳ	1997
136	神田原遺跡Ⅰ	1997
137	広平遺跡	1997
138	桟原城跡	1997
139	石田城跡	1997
140	長崎県の近代化遺産－長崎県近代化遺産総合調査報告書－	1998
141	大浜遺跡	1998
142	蒲河遺跡	1998
143	沖城跡	1998
144	桜町遺跡	1998

集	報　告　書　名	発行年
145	稗田原遺跡Ⅱ	1998
146	長崎奉行所（立山役所）跡	1998
147	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅰ	1998
148	長崎県埋蔵文化財調査年報５	1998
149	馬乗石遺跡	1998
150	長崎県埋蔵文化財調査年報６	1999
151	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅱ	1999
152	稗田原遺跡Ⅲ	1999
153	長崎県のカクレキリシタン－長崎県のカクレキリシタン習俗調査事業報告書－	1999
154	長崎街道－長崎県歴史の道（長崎街道）調査事業報告書－	2000
155	長崎県埋蔵文化財調査年報７	2000
156	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅲ	2000
157	稗田原遺跡Ⅳ	2000
158	長崎県埋蔵文化財調査年報８	2001
159	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅳ	2001
160	平野遺跡	2001
161	稗田原遺跡Ⅴ	2001
162	栄町遺跡	2001
163	石田城跡Ⅱ	2001
164	長崎県埋蔵文化財調査年報９	2002
165	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅴ	2002
166	森岳城跡	2002
167	玖島城跡	2002
168	千里ケ浜遺跡	2002
169	歴史の道整備活用推進事業　長崎街道整備活用計画報告書	2002
170	長崎県の祭り・行事調査報告書	2002
171	長崎県埋蔵文化財調査年報10	2003
172	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅵ	2003
173	森岳城跡Ⅱ	2003
174	供養川遺跡	2003
175	長崎県埋蔵文化財調査年報11	2004
176	地域拠点遺跡内容確認発掘調査報告書Ⅰ	2004
177	長崎奉行所（立山役所）跡－歴史文化博物館（仮称）建設に伴う発掘調査報告書－	2004
178	今屋敷家老屋敷跡	2004
179	下木場遺跡	2004
180	日蘭関係資料Ⅱ～県外編～	2004
181	長崎県の近代和風建築－長崎県近代和風建築総合調査報告書－	2004

集	報告書名	発行年
182	長崎県埋蔵文化財調査年報12	2005
183	長崎県奉行所（立山役所）跡　岩原目付屋敷跡　炉粕町遺跡 －歴史文化博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（下）－	2005
184	出島－一般国道499号線電線共同溝整備工事に伴う緊急調査報告書－	2005
185	地域拠点遺跡内容確認発掘調査報告書Ⅱ	2005
186	小野Ｆ遺跡－一般国道497号佐々佐世保道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－	2005
187	長崎県埋蔵文化財調査年報13	2006
188	地域拠点遺跡内容確認発掘調査報告書Ⅲ	2006
189	肥賀太郎遺跡－県道愛野島原線上流付替工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－	2006
190	門前遺跡－一般国道佐々佐世保道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－	2006
191	長崎県埋蔵文化財調査年報14	2007
192	万才町遺跡Ⅱ	2007
193	開遺跡Ⅱ	2007
194	稗山原遺跡Ⅵ・下宮遺跡	2007
195	小野条里遺跡	2008
196	長崎県埋蔵文化財調査年報15	2008
197	朝木城跡	2008
198	稗田原遺跡Ⅶ	2008
199	魚洗川Ｂ遺跡Ⅱ	2008
200	対馬宗家文庫史料－紙物日録(1)(2)(3)	2009
201	黒丸遺跡Ⅲ	2009
202	魚洗川Ｂ遺跡Ⅲ	2009
203	長崎県埋蔵文化財調査年報16	2009

4　事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移

○事業別発掘調査届出（99条関係）件数の推移

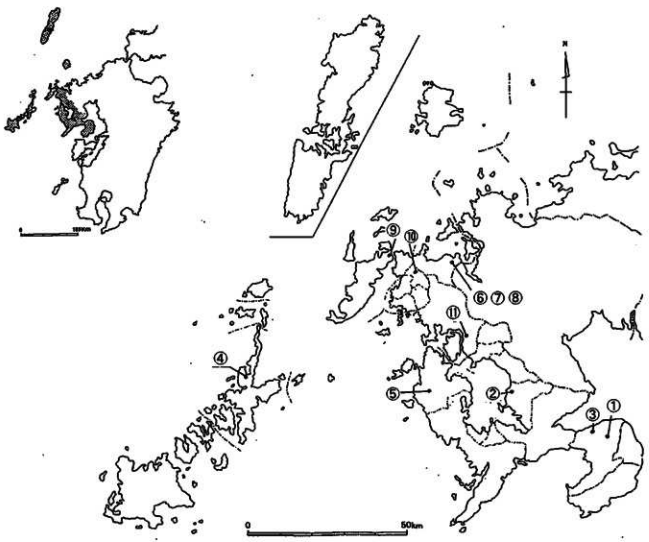
		平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
緊急調査	道路	10	12	13	13	10	5
	河川	1	1	0	1	2	1
	学校	1	0	0	0	0	0
	住宅・宅地造成	5	4	4	3	6	4
	工場	0	0	0	2	0	2
	店舗等	0	1	1	0	2	0
	その他の建物	1	4	3	1	3	2
	土地区画整理	0	0	0	2	2	0
	公園造成	1	0	0	1	4	1
	観光開発	0	0	0	0	0	0
	ガス等	2	2	0	0	0	1
	農業関係	6	9	6	6	7	5
	その他の開発	3	1	0	1	0	1
	自然崩壊	0	1	0	0	1	1
	遺跡地図作製等	0	0	0	0	0	0
	保存目的	18	24	19	7	7	7
	遺跡整備	0	2	0	0	0	0
学術・研究		2	3	1	1	0	1
合計		50	64	47	38	44	31

○県及び市町埋蔵文化財担当者職員数の推移［平成20年度市町は文化財担当者数を含む］

（　）は嘱託数

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
県	18（ 5）	22（13）	22（17）	23（17）	18（12）	17（16）
市町	43（12）	42（10）	46（10）	46（10）	35（ 8）	71（ 9）

5　平成20年度の調査概要



遺跡名	所在地	遺跡名	所在地
① 魚洗川Ｂ遺跡	雲仙市	② 黒丸遺跡	大村市
③ 守山条里跡	雲仙市	④ 奈摩の館跡	新上五島町
⑤ 奉遷遺跡・草木原第３石鍋製作遺跡	西海市	⑥ 中ノ瀬遺跡（範囲確認調査）	松浦市
⑦ 中ノ瀬遺跡	松浦市	⑧ 八幡山城跡	松浦市
⑨ 亀岡城跡	平戸市	⑩ 白岳池周辺遺跡	江迎町
⑪ 稗田窯跡	佐世保市		

① 魚洗川（いわれご）B遺跡

所在地	雲仙市国見町多比良戊	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	百花台公園整備工事	**調査面積**	700㎡
調査期間	平成20年６月15日～９月５日	**調査区分**	本調査
報告書	平成21年３月刊行	**処置**	調査後工事

立地

魚洗川Ｂ遺跡は、島原半島北部の標高200～280ｍの火山性山麓扇状地の扇のかなめの位置にあたる高台上に立地している。百花台遺跡群の一つとして、昭和62年から県道国見雲仙線改良工事に伴い調査が実施されて以来、８度にわたり本調査・範囲確認調査がおこなわれている。これまでの調査では旧石器時代から縄文時代晩期までの遺物が出土しており、旧石器時代の集石や礫群、縄文時代早期の炉跡・落とし穴などの遺構が検出されている。

魚洗川Ｂ遺跡位置図（s=1/25,000）［島原］

調査

調査は、平成16・17年度に実施した範囲確認調査の結果、縄文時代から旧石器時代の遺物や遺構が確認された範囲の３地点に調査区を設定し実施した。

Ⅰ層は表土および耕作土、Ⅱ層は黄褐色のしまりのない火山灰土層、Ⅲ層は黒色の火山灰土層、Ⅳ層は灰褐色のパミスを多く含む硬質土（カシノミ層）、Ⅴ層はクラックが生じやすい黒褐色の硬質粘土層、Ⅵ層はⅤ層と同質だがやや黄色味がある硬質土層、Ⅶ層は黒色の火山灰土層、Ⅷ層は明黄褐色粘質土の地山層である。Ⅱ～Ⅲ層が縄文時代の遺物包含層、Ⅴ～Ⅵ層に旧石器時代の遺物が包蔵している。Ⅵ層中には姶良Ｔｎ火山灰が確認され、同層中から数点の遺物の出土がみられた。

Ａ区は、表土直下にⅢ層が堆積し、Ⅳ層に掘りこんだ柱穴状の遺構が多数検出された。Ⅲ層中には縄文時代晩期の精製土器、粗製土器、磨製石斧などが出土しており、遺構は当時の時期に比定できる。Ⅳ層は約50㎝の厚さの無遺物層で、巨礫（火山礫）が混在しており、火砕流もしくは土石流による堆積と考えられる。Ⅴ層は調査区全体に確認され、旧石器時代の遺物が散在しており、調査区北側部分ではⅥ層に掘りこんで小土壙が６ヶ所確認された。小土壙の断面はレンズ状を呈し、埋土から遺物は出土していない。

Ｂ区は、調査区北側を中心に表土直下にⅡ層が厚く堆積しており、Ⅲ層に掘りこんで多数の柱穴状の遺構が検出されている。Ⅱ層の中からは縄文時代早期から晩期にかけての石鏃や縄文時代晩期の精製土器等が出土しており、出土遺物の時期に幅があることから二次堆積の層位と考える。Ⅲ層はＡ区で縄文時代晩期の遺物を包蔵した層位であるが、Ｂ区では遺物はほとんど含まない。Ⅲ層の下にはＡ

区同様、Ⅳ層が厚く堆積しており、Ⅳ層以下の遺物の出土状況を確認するために、はじめに西側と南側にサブトレンチを設定し掘り下げを行った。その結果、西側トレンチ南側（F－4～5区付近）に集中して旧石器時代の遺物が出土したため、その周辺に限りⅣ層を掘り下げ、遺物の分布を確認した。ただし、遺物はサブトレンチで確認した範囲のみであり、その他からは全く確認されなかったため、Ⅳ層の掘り下げは部分的にとどめた。

まとめ

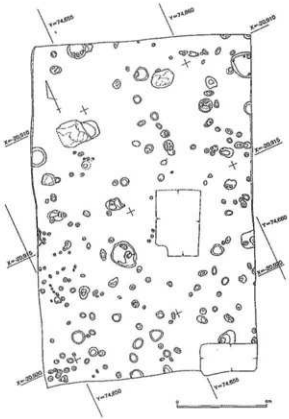
今回の調査では、百花台遺跡群の基本層序を改めて確認することができた。特にB区の南側サブトレンチで確認された層位は、Ⅱ層の黄褐色火山灰土層からⅧ層明黄褐色粘質土地山層まで連綿と続き、島原半島周辺の火山活動を窺い知ることができる。

また、Ⅵ層下層（Ⅵc層）ではかなり明確な姶良Tn火山灰（AT層）が確認されている。一面とまではいかないが、部分的には厚さ20cmに至るところもあり、石器の時期決定の基準となっている。ただし今回の調査においてはⅥ層以下の石器の出土点数が極めて少なかったため石器組成の相違を指摘するまでには至らなかった。

【調査担当：福田・山口・寺田・川澗・平田】（文責：寺田）

遺跡遠景

土層堆積状況（B区）



A区 縄文時代晩期遺構検出状況

② 黒丸（くろまる）遺跡

所 在 地	大村市黒丸町・沖田町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	河川改修工事	**調査面積**	930㎡
調査期間	平成21年１月13日～３月16日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成21年度刊行予定	**処　　置**	調査後工事

立　地

黒丸遺跡は、北部に流れる郡川河口部に形成された標高約０～10mの扇状地上に所在する。遺跡の範囲は沖田町・黒丸町に跨いで広がり、その面積は約1,000,000㎡と広大である。これまでに複数回の発掘調査がおこなわれており、縄文時代～中世に渡る長期間の複合遺跡であることが判明している。なかでも、縄文時代晩期～弥生時代早期にかけては遺物、遺構ともに充実しており、当該期に主体をおく遺跡として認識されている。また、遺跡北端にあたる沖田地区には条里遺構が残されており、この地区が古代、彼杵郡家に比定される要因の一つともなっている。

黒丸遺跡位置図（s=1/25,000）［武留路］

調　査

調査を実施した地点は黒丸遺跡の最北端部にあたり、郡川南岸沿いで水田や畑地として利用されている場所である。大村市が実施した範囲確認調査において縄文・弥生時代の遺物が出土した試掘壙周辺の930㎡について調査を実施した。重機による表土除去の後、10m×10mのグリッドを設定し、人力による全面掘り下げを開始した。なお、調査にあたり公共座標（世界測地系）に基づく10m方眼を組み、北から南方向へＡ・Ｂ・Ｃ…、西から東方向へ１・２・３…と区分けし、遺構実測や遺物取り上げをおこなった。

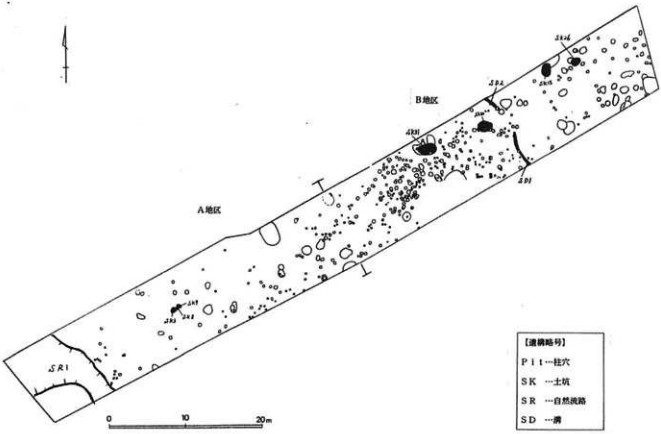
今回の調査ではＡ・Ｂ区あわせて柱穴約300基、土壙約40基、溝2条の遺構を検出した。Ａ地区で検出した８世紀代の土壙３基（ＳＫ３・８・９）を除き大半が、弥生時代早期～前期の所産と考えられる。柱穴の中には、一定の間隔で並ぶものがみられることから、建物跡の可能性が高いものが含まれている。土壙の大きさやサイズ、深さにはばらつきが見られる。土壙内覆土から出土する遺物は、破損したものや小片が多いことからゴミ捨て穴としての用途が考えられる。

遺物は、主に縄文時代晩期から弥生時代中期の土器、石器で約コンテナ40箱分が出土した。出土遺物には、Ⅲ層から出土した擦切りの石庖丁や、紡錘車、ＳＫ31内から出土した装飾を施した石製品などがみられる。

まとめ

今回調査した地点は、前年度の調査同様に河川の氾濫源にあたる。調査区内を南北の方向に幅10m以上の巨大な流路が複数流れた痕跡がみられた。柱穴、土壙などを検出した遺構面は、この流路内に堆積した最上層にあたることから、氾濫が縄文時代晩期～弥生時代中期にかけて終息する時期があったようである。その時期を選び、調査区周辺に集落を形成したのであろう。

【調査担当：山口・平田】（文責：寺田）



遺構配置図

遺構検出状況（B地区）

須恵器坏出土状況

③ 守山条里跡（もりやまじょうり）

所 在 地　雲仙市吾妻町古城名・本村名
調査原因　諫早湾干拓堤防南部取付道路建設工事
調査期間　平成20年10月６日～10日
報 告 書　なし

調査主体　長崎県教育委員会
調査面積　20㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　調査後工事

立　地

守山条里跡は、島原半島の北西部にあたる標高約11mの狭小な扇状地上に立地する。圃場整備以前は部分的に条里の痕跡が残る地域であり、隣接して大塚古墳や丸塚古墳などが立地し、古墳時代から古代にかけての歴史的な要所であったことが推測できる。

守山条里跡位置図（s=1/25,000）［湯江］

調　査

当該地区は、守山条里跡の北西側に位置する市道と干拓道路の取付部分（県道）にあたり、既存の道路拡幅を伴う工事である。遺跡周辺は平成元年圃場整備が行われており、それに先立って昭和63年範囲確認調査が実施されているが、今回の工事区域については未調査であった。

調査は、遺跡範囲内で既存の道路拡幅部分に５ヶ所の試掘壙を設定し実施した。各試掘壙では、平成元年の圃場整備の造成土が厚く堆積しており、掘り下げにかなり難航した。

遺物は縄文時代の土器・黒曜石製石器、古代から中世にかけての陶磁器・土器等が出土したが、いずれも２層（現耕作土基盤層）からの出土がほとんどであり、遺跡当時の遺物包含層は確認されなかった。

まとめ

各試掘壙ともに地表下１m以上の現耕作土と圃場整備造成土があり、明確な遺構及び遺物包含層は確認されなかった。ただし、２区からは水田層の堆積が部分的に確認され、近隣に条里遺構が残存する可能性はある。

【調査担当：寺田】（文責：寺田）

調査風景

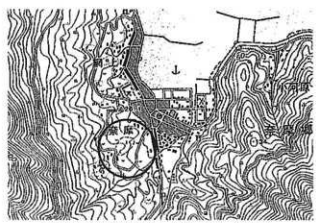
土層堆積状況（２区）

④ 奈摩（なま）の館跡（やかた）

所在地 南松浦郡新上五島町　　**調査主体** 長崎県教育委員会
調査原因 国道拡幅工事　　**調査面積** 19㎡
調査期間 平成21年３月23日～27日　　**調査区分** 範囲確認調査
報告書 なし　　**処置** 調査後工事

立地

奈摩の館跡は、上五島の北部に位置する奈摩湾の南岸に立地する。遺跡が所在する奈摩郷は、東、西の二方を険しい山地に覆われ、南方は青方、北方は奈摩湾に面する。遺跡は青方氏の祖である藤原尋覚が館を置いたとされる所である。遺跡範囲内中央部には、小高い丘陵がみられる。今回の調査地点は、この丘陵の東側裾野にあたる。



奈摩の館跡位置図（s=1/25,000）［立串］

調査

範囲確認調査は道路拡幅部を対象に、５箇所の試掘壙を設定した。

第１・２試掘壙では、近年まで使用された水田が確認された。水田の下の層には、粘土が厚く堆積した層が見られる。この粘土が厚く堆積した層中からは、調査時も常に湧水が生じることから、本来沼のようなものであったことが窺える。また、第３～５試掘壙でも、同様に近年まで使用された水田が確認された。水田の下は地山である。

まとめ

すべての試掘壙において遺物、遺構はみられなかった。ただ、近隣に奈摩の館が所在することについては記録上間違いない史実であり、遺跡の所在についての検証は今後も継続的に行う必要がある。

【調査担当：寺田・池田・平田】（文責：寺田）

調査風景

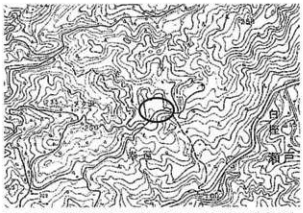
土層堆積状況（第４試掘壙）

⑤ 奉還遺跡（ほうかん）・草木原第３石鍋製作遺跡（くさきはらだい３いしなべ）

所在地	西海市大瀬戸町多以良内郷	**調査主体**	西海市教育委員会
調査原因	圃場整備	**調査面積**	82㎡
調査期間	平成20年11月17日～28日	**調査区分**	範囲確認調査
報告書	刊行なし	**処　置**	現地保存

立　地

遺跡は、多以良内郷の標高約200ｍの山間部に開けた狭い丘陵上に立地し、周囲は滑石の露頭があらわれている地形である。この地域は戦後の集団移民による開拓団により開かれた畑地であり、畜産業が営まれていたといわれており、開墾されていたがために遺跡の所在が確認されていた。



奉還遺跡・草木原第３石鍋製作遺跡位置図（s=1/25,000）［板浦］

調　査

調査は、奉還遺跡の範囲確認調査と、石鍋製作遺跡の石鍋工房跡が残存する滑石の露頭の周辺の確認調査を連続して行った。

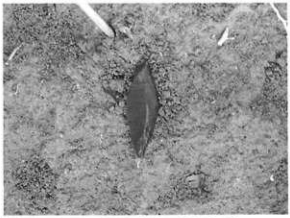
奉還遺跡では試掘壙14ヶ所を設定し、遺跡の残存状況を確認した。遺跡が立地する丘陵は現在は開墾により平地であるものの、旧状はかなり起伏があり、地形が高い部分は掘削され、窪地に盛る造成工事が行われていた。ただそのような中で約500㎡の範囲に遺物包含層が確認され、ナイフ形石器をはじめ旧石器時代の石器約50点が出土した。

草木原第３石鍋製作遺跡では、ノミ痕が確認される滑石の露頭する工房跡３ヶ所が確認され、その周囲の試掘壙から石鍋未製品が多数出土した。

まとめ

調査の結果、旧石器時代の遺物が出土した範囲と石鍋製作工房跡が確認された範囲については地権者の理解のもと掘削をおこなわず盛土および現状保存で残すこととした。

【調査担当：寺田】（文責：寺田）



ナイフ形石器出土状況（奉還遺跡）

石鍋工房跡検出状況（草木原第３石鍋製作遺跡）

⑥ 中ノ瀬（なかのせ）遺跡（範囲確認調査）

所在地	松浦市今福町浦免字中ノ瀬　ほか	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	西九州自動車道伊万里松浦道路建設工事	調査面積	70㎡
調査期間	平成20年11月17日～28日	調査区分	範囲確認調査
報告書	平成23年度刊行予定	処置	本調査

立地

当該遺跡は、松浦市北東部、東に佐賀県伊万里市と接する今福町に所在する。北流する今福川に沿って南の石倉山裾部から伸びる丘陵と、今福川によって形成された沖積平野、それを望む微高地上の水田部、標高約10m～約40mに位置し、東西約300m、南北約550mの南北に細長い範囲に展開する。現在、海岸線は近世以降の埋め立てによって、当該遺跡から約600mほど北に離れているが、それ以前は当該遺跡の傍まで湾が進入していたと考えられる。

中ノ瀬遺跡位置図（s=1/25,000）【今福】

調査

遺跡東部の丘陵部北端、今福神社の裏手にあたる地区に、東からＴＰ１（２m×４m＝８㎡）、ＴＰ２（２m×６m＝12㎡）、ＴＰ３（２m×22m＝44㎡）、ＴＰ４（２m×３m＝６㎡）、合計70㎡の試掘壙を設置し、調査を実施した。遺構はＴＰ１・３・４の第３層上面で確認した。検出プランから柱穴跡等と考えられる。範囲確認調査終了後、直ちに緊急発掘調査を実施するため、遺構の掘削は行っておらず、時期は不明である。遺物は、縄文時代、弥生～古墳時代、古代～中世、近世のもの、総点数229点が第１層（耕作土・客土層）から出土した。縄文時代のものでは69点の石器が出土した。石材は黒曜石と安山岩である。大半が腰岳産の黒曜石である。一部に星鹿産黒曜石も確認できる。安山岩のものはわずかである。剥片が大部分を占めるが石鏃も確認した。弥生～古墳時代のものでは37点の土器片が出土し、弥生時代中期頃を中心としたものと考えられる。胎土は非常に脆く、石英質の礫が混和材として大量に含まれる。古代～中世のものでは69点の土師器・黒色土器・瓦器・貿易陶磁器が出土し、11世紀後半～13世紀前半と16世紀後半の時期が考えられる。近世のものでは60点の陶磁器が出土し、初頭と後半のものと考えられる。

まとめ

今回の調査では遺物包含層等は確認できなかったが、柱穴跡等と考えられる遺構が複数検出し、試掘壙外への展開が推定される。遺物は耕作土・客土層からの出土とはいえ、当該地の環境から丘陵上の移動と考えられ、遺跡の性格を示すものとして重要である。

【調査担当：杉原・江上・石橋・柴田】（文責：杉原）

⑦ 中ノ瀬（なかのせ）遺跡

所在地	松浦市今福町浦免字中ノ瀬　ほか	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	西九州自動車道伊万里松浦道路建設工事	**調査面積**	4,800㎡
調査期間	平成20年11月18日～平成21年３月18日	**調査区分**	本調査
報告書	平成23年度刊行予定	**処置**	調査後工事

立地

当該遺跡は、松浦市北東部、東に佐賀県伊万里市と接する今福町に所在する。北流する今福川に沿って南の石倉山裾部から伸びる丘陵と、今福川によって形成された沖積平野、それを望む微高地上の水田部、標高約10m～約40mに位置し、東西約300m、南北約550mの南北に細長い範囲に展開する。現在、海岸線は近世以降の埋め立てによって、当該遺跡から約600mほど北に離れているが、それ以前は当該遺跡の傍まで湾が進入していたと考えられる。

中ノ瀬遺跡位置図（s=1/25,000）［今福］

調査

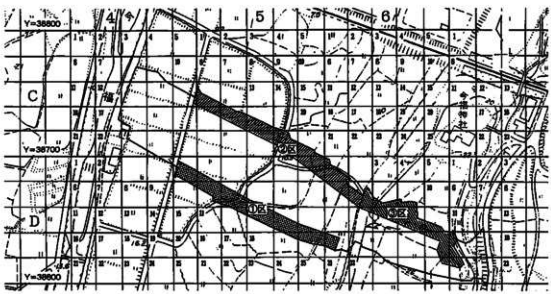
調査区は、座標系に合わせて南北を主軸とする100m方眼の大グリッドを設定し、東西を１～９、南北をＡ～Ｅと符号し、さらに大グリッド内を20m方眼で区画して中グリッドを設定、１～25の番号を付した。また便宜上、遺跡の南縁部を①区、北縁平地部を②区、北縁丘陵部を③区とした。

①区

遺構は、丘陵西側裾部斜面の東部（Ｄ－６－16区）の第３層上面において柱穴跡が検出したが、建物としての規則性はみられなかった。また、共伴遺物は出土せず時期は不明である。遺物は、東部から総点数326点が出土し、弥生時代の土器・石器、中世～近世の陶磁器を確認した。内訳は第１層（現代の水田及び客土層）から218点が出土した。出土遺物の大部分は弥生土器が占めるが、磨滅が著しい。石器は一部欠損した黒曜石製の石鏃が１点出土した。中世のものでは、貿易陶磁器の景徳鎮窯系青花が１点出土し、近世のものは国産陶磁器が出土した。第２層（傾斜地の２次的遺物包含層）からは96点が出土した。第１層と同じく、弥生時代の土器が大半を占めるが、中世の貿易陶磁器の龍泉窯系青磁、近世の国産陶磁器も出土した。

②区

遺構は、丘陵西側裾部斜面の東部と中央部で柱穴群を確認した。数基の柱穴埋土中から弥生土器、黒色土器、龍泉窯系青磁が出土しており、少なくとも一部は12世紀後半期のものと考えられる。第２層（傾斜地の２次的遺物包含層）からは、弥生土器、土師器、須恵器、滑石製石鍋、貿易陶磁器、近世陶器等が出土した。遺物の出土点数は1,143点、うち縄文時代44点、弥生時代700点、古墳時代１点、古代１点、中世178点、近世219点を確認した。



平成20年度中ノ瀬遺跡緊急発掘調査調査区及びグリッド配置図（s=1/3,000）

③区

遺構は、集石遺構、墓壙跡（ＳＫ）、柱穴跡（ＳＰ）、緩傾斜地に２次的遺物包含層（ＳＸ）を確認した。墓壙跡は、ＳＫ１～ＳＫ３が中世で、ＳＫ４が近世初頭のものである。ＳＫ１が円形プランを呈し、結桶の使用が考えられる。ＳＫ２・３は隅丸長方形プランを呈する土壙墓である。ＳＫ４は隅丸長方形プランを呈し、木棺を使用した可能性がある。遺物は、5,073点が出土した。今回の調査による出土遺物の約78％を占める。時代別では、縄文時代639点、弥生時代890点、古墳時代１点、中世1,120点、近世2,423点を確認した。遺構共伴遺物では、ＳＫ１とＳＫ３から土師質土器の坏と小皿が出土し、計測値と底部の回転糸切り痕から中世後期に比定できる。ＳＫ４からは胎土目跡の灰釉陶器皿が出土し、近世初頭のものと考えられる。ＳＰからも土器片と石器が出土したが、明確な帰属時期を示す遺物は出土していない。出土遺物の殆どがＳＸと第１層（現代の水田及び客土層）から出土し、黒曜石製及び安山岩製石器、弥生土器、瓦器、土師質土器、貿易陶磁器、瓦質土器、国産陶器、石製品、近世陶磁器、現代陶磁器等を確認した。

まとめ

全体的に調査区西側の平地部は、遺構、遺物ともに確認できなかった。今福川の氾濫源であり、生活環境として適していなかったと考えられる。調査区東側の丘陵は、今福川と人柱川支流によって形成された河岸段丘である。西側平地部よりも安定した環境にあるため、長年にわたって場の利用が行われていたと推測される。一部に12世紀後半のものが確認されたものの、残念ながら各々の詳細な時期は分からないが、相当数におよぶ柱穴跡の検出がこれを裏付けている。２次的に斜面に形成された包含層からは、③区が弥生時代中期・中世を主体とする、①・②区が弥生時代中期・中世・近世を主体とする遺物がそれぞれ出土しているため、そのいずれかの時代に属するものと考えられる。中世と近世の墓壙４基は、北側に隣接する今福神社との関係も推測される。

【調査担当：杉原・江上・石橋・柴田・半田・矢葺】（文責：杉原）

⑧ 八幡山城跡（はちまんやまじょう）

所 在 地	松浦市今福町東免字八幡山　ほか	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	西九州自動車道伊万里松浦道路建設工事	**調査面積**	72㎡
調査期間	平成20年５月19日～６月20日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成22年度刊行予定	**処　　置**	本調査

立　地

松浦市は、県本土の北部に位置し、北松浦半島の北端部および鷹島・福島等の島々から構成されている。地質は第三紀層を基盤として、北松浦玄武岩からなっている。

本遺跡は砂礫台地を呈し、砂岩風化土が堆積する。標高約48mに立地し、西の住ノ谷川と東の人柱川に挟まれ、石倉山から北西へ延びる丘陵先端部に位置する。両河川は北流して伊万里湾へ注ぐ。遺跡の周囲には「城ノ下」や「馬場尾」などの城に関わる字名が残る。

八幡山城跡位置図（s=1/25,000）［今福］

調　査

工事区域内に、７箇所72㎡の試掘壙（ＴＰ）を設定した。ＴＰ１～３では、「切岸」と「土塁」状の低い高まりを確認した。ＴＰ３の第３層より腰岳産黒曜石剥片が出土した。ＴＰ４は「平場」と考えられる場所に入れたが、遺構の確認はできなかった。遺物は第２層より青花片、青磁片、足鍋片、第３層より星鹿産黒曜石の未製品、第４層より星鹿産黒曜石原石が出土した。ＴＰ５～７は、稜線に添った通路の確認を行うために試掘壙の設定を行ったが、通路は確認できなかった。ＴＰ５～７では、出土遺物はなかった。

まとめ

調査の結果、工事区域全面に遺構が展開しているものと推定される。ＴＰ１～３の設定を行った工事区域東側では、「切岸」が確認でき、さらにその下方に他の遺構の展開も考えられる。ＴＰ４付近は「平場」が推定され、15世紀を主体とする遺物が出土した。ＴＰ５～７の付近は今回は確認できなかったが「平場」間を結ぶ通路の存在が想定される。時間的制約で試掘壙の設定は行えなかったが、他にも現地形から「平場」が想定される場所もある。

さらに、星鹿産、腰岳産黒曜石を使用した石器の未製品などが出土していることから、一部の地区に縄文時代の遺構や遺物包含層が展開することも推定される。

【調査担当：杉原・荒井・江上・石橋・柴田】（文責：杉原）

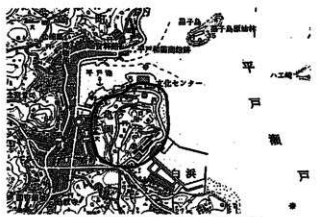
⑨ 亀岡城跡（かめおかじょう）

所 在 地　平戸市岩の上町
調査原因　猶興館高校セミナーハウス解体工事
調査期間　平成20年8月18日～平成20年8月22日
報 告 書　刊行予定なし

調査主体　長崎県教育委員会
調査面積　8㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　調査後工事

立　地

亀岡城跡は、平戸瀬戸を望む岬先端部の小高い丘陵に築かれている。元禄16年（1703）の『日の岳城図』では、岬の付け根以外はほぼ海に囲まれていて「海城」の特徴をよく表している。その後江戸時代後期に作成された『平戸城文間図』では、ほぼ現在の形に近い形で埋め立てられている。



亀岡城跡位置図［平戸］(s=1/25,000)

調　査

調査区は2×2m（TP1）と1×4m（TP2）の試掘壙2箇所を設定し人力による掘削を行った。TP2の調査区西壁では、壁際に石が並んだように検出された。この付近が亀岡城跡の斜面と馬場跡の平面地との地形変換点にあたり湧水もあることから、排水路の裏込め石の可能性も考えたが、ただの自然石で遺構ではなかった。

層位は、第1層が表土で弱粘性の褐灰色土層である。その下層に第1'層の灰褐色粘土と黒褐色土の混土層である。第2層は橙色の粘性ローム質土層である。

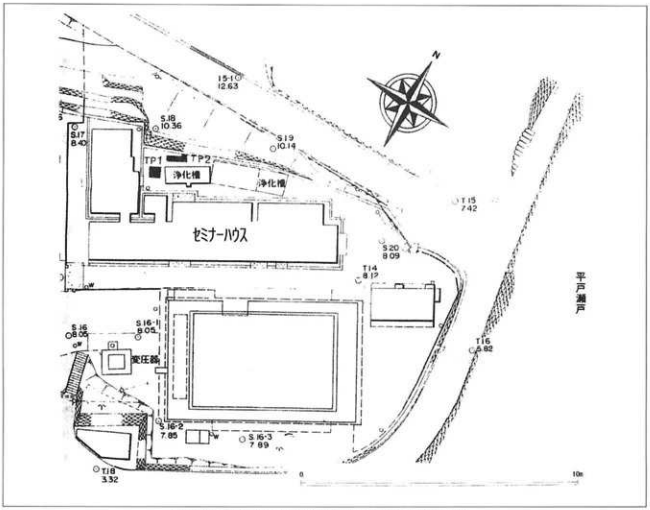
遺構が確認されなかったのは先述したが、遺物はTP1、2共に第1層から近世の瓦片や擂鉢片が出土した。瓦片の一部には平戸松浦家の家紋も認められた。

まとめ

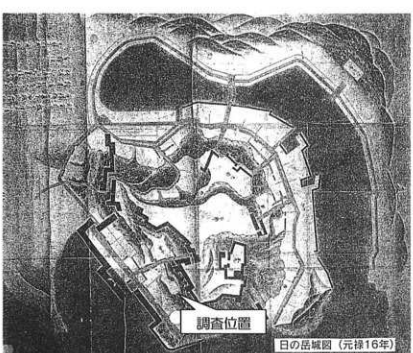
調査の結果、江戸期の遺構及び文化層と考えられるものは確認出来なかった。出土遺物の中には江戸時代前期まで遡るものもあるが、ガラス片やプラスチック片等も同一層（第1層）から出土していることから、高校の敷地造成時に削平されたと考えられる。よって工事着工は可能と判断した。

今回この猶興館高校の敷地を調査した訳だが、先述した元禄16年の『日の岳城図』と江戸時代後期に作成された『平戸城分間図』を見てみると、猶興館高校の敷地内に現在もその石垣が残存している御船江から天守閣へと登る登城路が描かれている。2つの絵図では百年程の年代差があるので、その位置箇所数が変化しているようである。元禄16年の『日の岳城図』では北側の平戸港からも2箇所の登城路があり3箇所が描かれているが、江戸時代後期の『平戸城分間図』では今回の調査地である猶興館高校からの登城路のみが大きく描かれているので、全体的な残存状況の確認調査の必要性があろう。

【調査担当：村川・浦川】（文責：村川）



第１図　亀岡城跡範囲確認調査試掘坑配置図（1/100）



第２図　日の岳城図と調査位置図

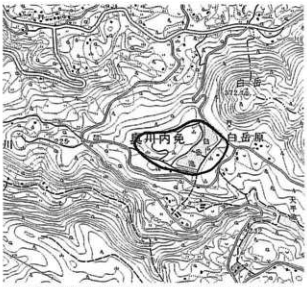
⑩ 白岳池周辺（しろたけいけしゅうへん）遺跡

所 在 地　江迎町奥川内免
調査原因　公衆便所新設工事
調査期間　平成20年9月8日～平成20年9月12日
報 告 書　刊行予定なし
調査主体　長崎県教育委員会
調査面積　7㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　調査後工事

立　地

本遺跡が所在する白岳県立公園は、北松浦半島台地のほぼ中央に位置し、白岳（373.5m）とその麓に溜池が点在する。遺跡は白岳直下の白岳池周辺に所在する。これらの溜池には旧石器時代～縄文時代にかけての石器が散見され、周知の遺跡となっている。

これらの遺跡の中でも、この白岳池周辺遺跡を始めとして七腕遺跡、根引池遺跡等が発掘調査によって旧石器時代の包含層が確認されている。



白岳池周辺遺跡位置図［佐世保北部］(s=1/25,000)

調　査

調査地はなだらかな斜面にあり、当初1×4mの試掘壙1箇所を地形の傾斜に長辺をあわせて設定した。最終的には平坦面まで3m拡張し1×7mを調査した。出土遺物及び遺構も確認されなかった。

層位は、第1層が腐葉土の表土層で、第2層が橙色弱粘質土層。第3層が明赤褐色粘質土層である。

まとめ

調査の結果、遺構や遺物及び文化層と考えられるものは確認出来なかった。このことは対象地が緩斜面であったことと、遺跡の中心地からは離れていたことが考えられる。今回の調査地点から北東へ150メートルの位置で昭和60年に県文化課（現　学芸文化課）で実施した発掘調査では、ナイフ形石器文化の包含層が確認されている。　【調査担当：村川・浦川】（文責：村川）

調査区遠景

調査区

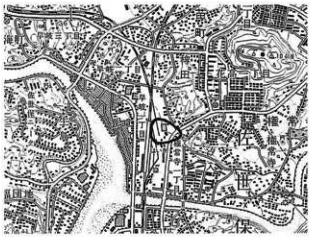
⑪ 稗田窯跡（ひえだかま）

所 在 地　佐世保市早岐１番地
調査原因　早岐駅移転計画による
調査期間　平成21年３月２日～平成21年３月11日
報 告 書　刊行予定なし
調査主体　長崎県教育委員会
調査面積　18㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　調査後工事及び協議

立　地

稗田窯跡は、早岐瀬戸の東に位置していて、早岐駅構内東側から構外にかけて所在している。

周辺の遺跡としては、北西に位置する弥生・古墳・中世の時期の大念寺遺跡、中世山城では早岐城跡、広田城跡、指方城跡等があり、同じ窯跡としては本窯跡の南を流れる小森川の南岸に広田上窯跡、広田下窯跡等がある。



稗田窯跡位置図［早岐］(s=1/25,000)

調　査

稗田窯跡は早岐駅構内にありプラットホーム以外、構内のほとんどは立入禁止なので、これまで内容及び分布範囲が駅構内まで及ぶものかどうかもよくわかっていなかった。車両基地移転計画により、分布調査を実施し、近世陶磁器や窯道具等を表面採集したので範囲確認調査を実施した。

調査は、２×２ｍの試掘壙を４箇所構内に設定することにしたが、実施に当たっては、鉄道の運行に支障が出ないように行うためと調査関係者の安全のために鉄道工事管理者と列車見張員を付けることが条件であり、工事（調査）の時に必要な協議を九州旅客鉄道(株)佐世保鉄道事業部長と行い実施した。

調査の結果、ＴＰ１、２、４で１～３層までは早岐駅創設に関係する造成土層（石炭ガラを含む黒色系土層）と考えられ、その下層の４層（明褐色土層）にしても隙間がある客土であった。ＴＰ３でのみ５層（比較的固い黄褐色土層、地盤と考えられる）が確認された。出土遺物及び遺構もＴＰ３でのみ確認され、近現代の陶磁器と、その時期のものと考えられる溝と柱穴が認められた。

まとめ

早岐駅は明治30年早岐機関庫が創設されたのに始まる。ＴＰ１、２、４で海抜３ｍ前後の地表面から2.1ｍ程掘り下げて底面は海抜0.9ｍのレベルになるが、海水か汽水と考えられるものを確認した。ＴＰ３では地盤面を確認したことから元々は起伏があったものと考えられるが、早岐駅の開業に伴い、平らに整地されて埋められたものと推測された。確認した遺構等は近現代のものと判断された。

【調査担当：村川・浦川】（文責：村川）

調査風景

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう17
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報17
副書名	平成20年度調査分
巻次	
シリーズ名	長崎県文化財調査報告書
シリーズ番号	第205集
編集者名	長崎県教育庁学芸文化課
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒850-8570 長崎市江戸町2-13 TEL 095-894-3384
発行年月日	西暦2010年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町	遺跡番号					
魚洗川(いわらい)B遺跡ほか11遺跡								

長崎県文化財調査報告書　第205号

長崎県埋蔵文化財調査年報17
［平成20年度調査分］

平成22年３月31日

発　行　長崎県教育委員会
長崎市江戸町2－13
印　刷　有限会社　正文社印刷所